

北海道情報大学学内報

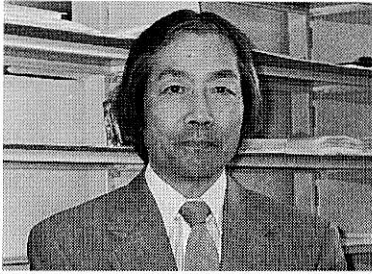


体育祭

● 目 次 ●

合宿研修を終えて 角井学生部長……………	2	経営情報学部・通信教育部入学式……………	9
海外訪問記 大島講師……………	3	体 育 祭……………	9
学内報新春座談会(下)……………	4～7	主要行事……………	10
入試科目の変更について……………	8	編集後記……………	10

発 行・北海道情報大学  
 〒069 江別市西野幌59-2 TEL 011-385-4411 FAX 011-384-0134



## 合宿研修を終えて

学生部長 <sup>かく</sup>井 <sup>あつし</sup>穆

合宿研修(定山溪)からすでに3ヶ月も経過したため、印象も消えそうになっているのではないのでしょうか。

それというも、新入生にとっての前期は、大学という新しい生活の始まりなため、心身ともに強烈な刺激を受けるからです。

さらに、個人的な事情だけではなく、日本はもとより世界全体が情報革命のため大変動の時代であることも影響しています。

情報革命の影響が多くの人々の予想を超えた深刻な事態をもたらしている理由として、パソコンの急激な普及とインターネットの利用があります。

バブル崩壊にともなう大学卒業者の就職難も、すでに3年にもわたる景気拡大局面によって終ろうとしています。

この景気拡大局面をささえている要因の一つが、携帯電話とPHS(簡易携帯電話)の急激な普及です。

今年の3月末で、携帯電話は2千万台・PHSは6百万台を超えるという普及状況になっています。

いまでは、小学生でもPHSを利用しています。

昨年は、輸送機械(自動車など)生産額よりも電子機械(電話やパソコンなど)生産額が大きくなり、日本産業の情報化や日本の情報社会への転換は決定的となりました。

さらに、今年3月末までのCATVの普及率は、10%となり、デジタル化・多チャンネル化によって、今後の急激な普及率上昇が予想できます。

日本の情報産業を代表するNEC(電子機械メーカー)の1998年度の売上高は、4兆298億円、前年比増16.8%という高度成長を達成しました。

こうしたことから、今の日本は、ネットワーク景気(情報革命景気)の状態にあるといわれています。

ネットワークといえばインターネットがその中心にありますが、インターネットを利用した通信

販売も、急激に拡大しつつあります。

電子市場・電子取引・電子貨幣は、もはや実用化され、それなくしては経済は成立しないという時代になっています。

こうした新しいビジネスを、サイバービジネスといえます。

北海道情報大学は、来年は創立10周年をむかえますが、このわずか10年間に、時代も大学も学問(科学)も、大きく変化しました。

最初はサイバービジネスはもちろんのこと、CATVや携帯電話ですら、夢のような話とされていたのです。

みなさんがこの大学で4年間にわたって学ぶということは、この急激に変化して新しい時代・新しい世界に転換されつつある現代を理解して、サイバースステムの創業者ともなるという将来に直結しています。

パソコンを操作できるようになるというところからスタートして、4年間をかけて、インターネットを自由に利用できるというレベルまで到達して下さい。

4年間は、そのためには十分な期間です。

みなさんが情報科学を学ぶことで、この時代・この世界は、ビッグチャンスにあふれた状況となります。

そして、大学を卒業して就職して大きな仕事(サイバービジネス)をなしおえた頃に、1997年4月に、定山溪で合宿したことを思い出すというのがよいでしょう。

今、みなさんの前にあるのは、過去(わずか3ヶ月前であっても)ではなく、コンピュータとインターネットがつくりだそうとしている新しい世界です。

この世界は新しいが故に、みなさんを規制するルールはなく、みなさんが自由に望ましいルールを創造できる世界です。

# 海外訪問記

## はじめての “どらしいび”

経営学科 講師 大島 佳代子

カナダの国旗にも描かれているサトウカエデの紅葉を見に、ロレンシャル(モントリオールより車で北に1時間ちょっと)に出掛けた折りに、左ハンドル・右側通行の運転を初めて体験しました。「1番小さな車を」と頼んであったのに、用意されていた車は7人乗りのワゴン車。日本にいたときでさえ運転したことがなかったのですが、車を替えてもらうための英作文を考えるよりは運転の方が簡単だと判断し、「いざ出発!」と思ったら、シフトレバーがないのです。いくらオートマとはいえ、エンジン掛けてアクセル踏むだけってことはないはず……意を決して、そばにいたタクシーの運転手に聞いてみました。そしたら、ありました。ハンドルの横に。カナダ人は本当に親切な人が多く、他の運転手もわらわらと寄ってきて、その他いろいろ教えてくれました。最後には「この車はオートマチックなんだからノープロブレムだ」と言われ、運転手総出で手を振ってお見送りまでしてもらいました(因みに、カナダではバックで出庫するとyou are a good driverと褒めてもらえます)。そのときから、確かにいやーな予感にはしていました。彼らの英語が妙なあとは気がついていました。そう、モントリオールはケベック州。カナダの公用語は英語と仏語ですが、フランスからの移民が多いケベック州では、州法で仏語が公用語と決められているのです。オンタリオ州では道路標識は英語と仏語が併記されていたのに、ケベックでは仏語だけ。意味が分かるのはarrêt(止まれ)のみ。更に、交通ルールも信号機の灯火の数も州によって異なるのです。とはいえ、すでに引き返すわけにもいかず、人さえ憚かなきゃ大丈夫と北へ向かいました。田舎に向かったのですから「行きはよいよい」でしたが、「帰りは怖かった!」モントリオールはカナダ第2の都会。町中に入ると急に交通量が増え、幹線道路が複雑に交差し、私が走ってきた15号線が何故か突然消え、標識によれば直進するとアメリカだと書いてあるようだけどパスポートなんか持ってきてないし、ダウンタウンはどんどん後方に遠ざかって行くし、車専用道路だから止まるわけには行かないし、トロントへの帰りの電車の時間は迫ってくるし……カナダに来て

初めてパニック状態に陥りつつ、ダウンタウンって仏語で何というのだろうなどと考えていました。ところが、日頃の行いがよいのでしょうか。ただ、ひたすらまっすぐ走っていたのに、道が大きく迂回していて、何とダウンタウンのど真ん中に着いてしまったのです。さっきまでのパニック状態はどこへやら。「余裕の30分前到着!」けれど、それも束の間。給油をしなくてははいけない。「時間のない時は人に聞くのが1番」と、またまたタクシー運転手にガソリンスタンドの所在を聞いたのですが、町中は一方通行だらけ。1本間違っただけで左折したお陰で、すぐ近くにあるはずのスタンドにたどり着かず、再びパニック!! ところが、適当に走っていると目の前にスタンドが現れたのです。早速給油し、駅のレンタカー・カウンターに戻ったのが電車出発15分前。なのに、順番待ちの人の列……3度パニック!!! 慌てながらも、とにかく割り込ませてもらって手続を済ませ、電車に飛び乗った途端、発車オーライ。何とか、無事に、トロントへ戻ることができました。

「英語がキチンと話せないから海外はちょっと」と躊躇している学生諸君、まずは出掛けてみましょう。所詮、会話は何語であっても、人と人がするもの。伝える意志があれば何とかなるものです。パニック状態だって、後になれば懐かしい思い出になります。カナダはオーストラリアなどと同様、ワーキング・ホリデー(アルバイトとして働き、旅費を補いながら旅行することを許可する)制度で、積極的に若い人を受け容れているし、何しろ治安のいい国です。皆さんも、自分だけの「はじめて体験」してみませんか。



# 新春座談会

## ～北海道情報大学に 学んで～(下)

日時：平成9年2月13日(木)13時 1F会議室



編集委員  
平子先生



梅津先生



田中先生



廣奥先生



編集委員  
伊藤先生



経営  
池田先生



情報  
白田先生



教授  
明実先生



情報  
水澤先生



教授  
本間先生



経営  
橋本先生

**橋本君** 今、“経営モデル分析”というのがありますよね。こういうものももう少し取り入れたら良いんじゃないかと思えます。経営学科で経済学をやっていますけれど、経済学に関するカリキュラムが少ない気がします。マクロ経済なんかはないですよね。

**田中先生** 実は、便覧に書いてあると思うんですが、一般教養の増田先生の経済学はミクロ経済学です。鏡先生の経済学はマクロ経済学、あれをミクロ、マクロと言ひ換えたかどうかというふうに私は個人的に思っています。このゼミを選択する時に、この経済学が重要になってくるとか、取りやすくなるし、カリキュラム上何が問題なのか、大学の個性を出すのはカリキュラムの配列そのものではなくて、配列の仕方だと思う。つまり選択必修科目を入れる、そうすると一気に個性が出て来る。このグループを選んだらコンピュータがかなり入っている、ということですね。

**伊藤先生** 経営の学生さんが2人も、1年生だけでなくそれ以降も、コンピュータを継続してさわられるような環境をつくってほしいというお話なんです。どの程度までなのか、レベルがありますね。“EXCEL”とか“一太郎”を1年生でやっている。ではその＋アルファなのか、それとも別のカテゴリーなのか、どういうものを希望しているのですか？

**昕さん** “EXCEL”と言われても、何なのかわからないので、初歩的な事をわからない人もたぶん多いと思うんで、奥までつめるんじゃないんですけど、一応コンピュータを使えるというところくらいまで。

**伊藤先生** 1年生の時にやる実習というのはどういう内容なんです？

**昕さん** “ロータス”と“一太郎”をちょっと…。  
**廣奥先生** コンピュータ教育に関しては、経営と情報で実はほとんどカリキュラム上、違いはないはず。情報の方が多くコンピュータにさわられるような必修科目が多いということはないは

ずです。それから、コンピュータを使って何をやるのかというのが決まっていなくて中々コンピュータって勉強出来ないんです。目標があって、やらなくては行けない事を覚えていったから出来たわけであって、漠然とコンピュータを覚えたいと言っても、たぶんそれでは、結局何も身につかないで終わってしまうはずなんです。

**橋本君** 1年生の最初に、『初めてのパソコン教室』みたいに、コンピュータで何が出来るのかを教えてもらえば、自分のやりたい事も、機械をどうやって使っていくのかというの分かる、そして教えてもらいたい事もはっきりするんじゃないかと思うんです。まずは経営の人はコンピュータを道具としてみなので、何かの目的に対してコンピュータをどうやって活用して行うのかという事が先に立ってしまおうと思うので、使い方とか、何に使えるのかを最初に教えてもらった方が取っ付きやすいんじゃないかと。

**平子先生** そういう授業はないんですか？

**廣奥先生** 一般的にコンピュータというものがどんな事が出来るのかという事は、学生はどこの講義でも聞くチャンスがない。それを教える講義というのは名目上のそうになっているものは、実はないんじゃないかという気がします。強いて言えば情報処理基礎ですか、その中でグローバルな話を、コンピュータに出来る事は、こんな事、あんな事という話をしてから、例えばワープロ、“一太郎”というのを使ってみよう、家計簿1つ付けるのでも、“EXCEL”を使えばこんなふう出来るでしょうとか、そういう話をしてから入っていき良いのかもしれませんが、それは講義の形式なのかもしれませんが、もう少しそれをカリキュラム的に見直す必要はあるのかもしれませんが。確かに非常に重要な意見です。

**本間君** 僕も最初はそうだったんですけど、パソコンは使ったことがないと最初はやはり怖いん

ですよ。ですから具体的なソフトウェアを使うことによって、コンピュータはこうだというものが出来れば、それで良いんじゃないでしょうか。その後は必要に応じてその応用ソフトを使えるようになれば、それで十分だと思います。

池田君 その必要に応じてというのがわからない、こういうシーンならこういう事が出来て、あるいはこうすれば効率良く出来るというような事を、情報大学という名前が付いているんですから、そういう授業は必要なんじゃないかと思えます。

本間君 それは、周りにも情報はかなり流れているんですから。

池田君 知りようがなければ情報を得ることすら出来ないんですよ。

本間君 でもそれは、雑誌とかにも書いてあるでしょう。

池田君 雑誌を見る機会がないし、見ようとは思わないでしょう。

本間君 それは自分の問題でしょう。

池田君 ここでコンピュータを使おうと思えば、参考書なり雑誌なりを見るでしょうけれども、使おうと思わなければ、参考書だって雑誌だって見ないわけですよ。人に聞くことだってしないでしょ。そういう事を示唆する授業があっても良いと思うんですけれど。

本間君 そういような何でも与えられるものではなくて、自分からというのが問題なんじゃないですか。

平子先生 お2人の意見はちょっと違いますけれど、コンピュータ教育のベースのようなものが問題なのではないですか、結局、そういうものがなくて、'実用的なソフトの扱い方とか、そこだけを教わっても、体系の中でこの部分なんだというのがわかってないから、逆にいうと1人になった時にはそこしか出来ない、という事になっちゃうわけですよ、たぶん。

米澤君 もっと単純に、もしコンピュータでどうい事が出来るのかわからない学生がいるのだったら、講義にはなくても、1泊2日で新入生の合宿研修があるんだから、そういう場で15分なり、20分なり、コンピュータはこんな事が出来るんだよという事を実演するのも大分効果は違うと思いますけれど。

平子先生 その辺りは、いろいろご意見を聞かせていただいて、教員側で受け止めるべき問題だと思います。

田中先生 コンピュータで我々が何が出来るのかというのではなく、企業がコンピュータで何をやっているのかという事は君らは知っているんですか。何も知らずに動かしているのであれば、+アルファはつかない。そこに私は経営情報学部の1つのものすごく大きな意義があるというふうに思う。情報学科の学生も経営学科の学生も、その為到我々は何をしなくてはい

けないかというような講義であれば、あっても良いのではないか?それは情報大学のカリキュラムの中に入っていますか?あなた方が受けて来て、あの講義だと思ふのがありますか?

池田君 そうですね、大学に入って1番ショックだったのが、経営と情報が完全に分離されているんですよ。経営でも確かに情報系の授業はありますが、経営情報の授業じゃないんです。あくまでワープロさわるとかという、コンピュータの事を知るとい程度で、経営に対して情報を応用とかという授業は全くないんです。あなたはもっと融合していると思って入ったんですかね。

池田君 はい。経営に対して、もっとコンピュータを応用するような事をやるもんだ、と思って入ったんですけれども全く無かったというのは残念でした。

白田さん 私は、C言語のⅡを取ったんですけれども、C言語とCOBOLとクラスの授業の関係で私は2つ取れたんですけれど、取れないクラスもあって、そこは差別だと思ふんです。2つ取るのは結構大変だったんですよ。だからその辺を、前期と後期に分けてくれれば、1番楽だったのにといいふりに思いました。

廣奥先生 その方が特別だったんですよ。今までは時間割上、どちらかしか取れなかったんです。学生さんがどれくらいそれを希望していたかなんです。CとCOBOL両方取る必要性がどれくらいあるかという事です。

白田さん 情報学科の人って半分くらいは、試験を受けようと思っているので。(通産省情報処理試験)

廣奥先生 その時はたぶん、Cで。今、みているとわかると思うんですけれど、情報学科の学生は大体C言語の方を取っていると思いますけれども。

白田さん でも、最初の時って、全然両方とも何もやっていない状態だから、両方やってみて、どちらを取ったら良いとか、試験の内容をみて……。結局受けてみて両方とも使えないという事がわかったんですけれど。あの内容だったら両方ちょっとダメですよ。

伊藤先生 でもそのくらいの情報だったら、例えば図書館に行くと、CとCOBOLの初心者用の本をめぐって見て、どちらの方が自分に合いそうかな、というふうに調べるぐらいで十分じゃないかな。

白田さん そうですか、COBOLって結構データがないと難しくないですか?やってみてどういものかわかるのに、授業でちゃんと中に入っているデータがあって、呼び出して移行してみるまでは難しくないですか。

平子先生 先生たちの考えている予測と、学生の目の高さでみるものは、ちょっとずれていると思うんですよ。半分くらいは試験を受ける為にといいましたけれど、わりとそうなんですか?

- 情報系の学生だと。
- 橋本君** この大学を出ると取れる資格というのは特  
ないんですか？大学を卒業することによって  
得られる資格というのは。
- 廣奥先生** それは、どこの大学でもないでしょう。ただ  
例えば教員免許を取らせるという話は先生方  
の中でも議論していることだと思います。他  
の資格については特に普通の教員免許を除け  
ば、あとは個人の問題だと思います。例えば  
医大に行ったら医者になれるというわけでは  
なくて、国家試験を通らなくちゃいけない。  
大学を出たから取れる資格ではないですね。  
情報という情報処理の2種ですね、かなり  
学生が受けているようです。
- 橋本君** 必要ですか？
- 廣奥先生** そこは企業がどう考えているかによって随分  
違うと思うんですけどね。
- 橋本君** 僕は必要ないと思っているんですが。
- 廣奥先生** 僕も個人的な意見としては、全く役に立つ資  
格ではない、正確にいうと資格ではないんで  
すね。あれがあるから何かが出来るというわ  
けではない。免許の類いではないですから。  
最低限の事が出来ますという事を認定して  
もらったという事なんでしょう。じゃあそれが  
本当にコンピュータが使える人と思ってもら  
えるかは別なので、逆に持っていないからと  
いってもコンピュータをすごく良く出来る人  
もたくさんいるんですよ。
- 伊藤先生** 試験の為というふうに講義の内容を変更しちゃ  
うと、逆に講義の内容がつまらなくなってい  
まう危険性があると思います。ですから大学  
側としては試験の為にだけに講義を開設す  
るのはたぶん、そういうスタンスは持って  
いないと思います。
- 平子先生** そういう事は良くわかります。ただ大学とし  
て何をメリットとして打ち出すかというこ  
ろがないと、魅力あるカリキュラムという  
ふうになるんだろうかと思うんですけど。  
今、就職率とか、就職の為に必要な資格は  
というような事を基準に大学を選ぶという  
風潮があります。特に今女子が就職難です  
から、そういった資格が直接的な武器にな  
ってくる。その点は女子の学生の方はどう  
ですか？
- 白田さん** ゼミの先生によく言われます。
- 米澤君** 別に女の子に限らず、うちの大学は出来て  
まだ8年目ですから、企業側としても、卒  
業生で就職していない企業も一杯ありま  
すから、そういうところで、ないよりはあ  
った方が武器にはなると思います。
- 白田さん** 私の場合は女子は厳しいから、絶対取  
っておきなさいと言われてました。
- 廣奥先生** 勿論、持っていて悪いことはない  
ので、でも最後はやっぱり実力だと思  
うんですよ、実力のない資格だけがあ  
っても仕方ないという事だけは言  
いたい。
- 橋本君** 就職したり、資格が欲しいために  
大学に来る
- のは違うような気がします。
- 本間君** でもそれは、理想論になると  
思います。
- 田中先生** 日本の学生は大学4年間で、  
自分の売りものをつくらうとは思  
っていない、つまり付加価値が  
ないと思えないのに、それを  
そういうふうに思っていない  
ところに、ものすごく大きな  
問題があると思います。何  
でも良いから自分の売り  
ものを4年間でつくる、それ  
が一応コンピュータに関連  
している、というのがやっ  
ぱり情報大学だと思うん  
だけれども、自分を企業に、  
あるいは社会にアピールす  
るという、プロ意識がもの  
すごく欠けるのではないか  
というふうに思います。今  
からの社会は非常に不確  
定な社会なので、自分に  
付加価値をつけていく事  
が非常に重要ではないかと  
、それがたぶん実力とい  
うことになるのだと思  
います。
- 池田君** 廣奥先生が先程“対外的に”  
というお話をされました  
けれど、情報処理2種とい  
うのは対外的なものなの  
で、実際に中身が伴わな  
いだったらい方が良いとい  
う反面、肩書の効果も認  
めてもらっちゃいますよ  
ね。大学を出たという肩  
書と、大学で情報処理2種  
取ったという肩書、とり  
あえずそれだけあれば就  
職も、高校を出ただけよ  
りは出来るわけですよ  
ね。しかもそれに中身が  
伴っていればさらに良い  
という、そういう意味で  
大学で資格を取るとい  
うのは重要なことじゃ  
ないかと思うんですけ  
れど。
- 伊藤先生** 確かに一理あると思  
います。でもその考え方  
の基本は、就職がゴール  
だというふうに関こ  
えるんですよ。
- 池田君** ですから中身が伴ってい  
れば就職してからも、出  
来るわけで、肩書はある  
意味ではあった方が良  
いわけで、就職という通  
過点から先は伸びる可  
能性があるというふう  
に思うんですけど。
- 廣奥先生** みんなが池田君のよう  
に一つの通過点として、  
またスタートできれば  
良いですけど、皆が皆  
そうはならないだろう  
から、資格さえ取れば  
それで良い、就職出来  
ればそこで良いんだとい  
うふうになってしまう  
のが非常にこわいん  
ですよ。結局そこで  
おしまいになってしま  
うと、その学生がその  
企業で伸びなかった  
時に次が続かなくな  
る、大学としての就  
職率も下がっていく  
事になってしまう。例  
えば世の中に皆さん  
が出ていっても、自  
分の母校の評判が低  
かったら、つらい。皆  
にとっては確かに  
資格が必要なのはわ  
かるんですけど、大  
学全体としてそうい  
う方へ傾くというこ  
とはないと思いま  
すね。
- 本間君** でも資格を持ってない  
と企業に人社するとい  
うスタート地点にも  
立てない可能性が  
ないですか？
- 橋本君** 資格はなくても  
関係ないと思いま  
すよ。
- 伊藤先生** これはもっ  
とたくさん  
の学生の意見  
を聞かない  
とわかりませ  
んが、必ずし  
も資格がなき

というわけではないと思います。一部の企業は資格云々言う会社はあります。けれどそれが大半を占めているかというところではない、むしろ面接の時、「自分はこういう勉強をして来て、こういう事には負けません」とはっきり言えるような、そういう学生であれば「資格を取っています」と言うよりは、ずっと強力だと思います。

田中先生  
本間君

目の輝きが違うと思う。  
でもそれを証明する手段が入社してみないとわからないという気がします。

田中先生

例えば君らは中学の時は、高校に入るのが目的になる、高校に入ると大学に入るのが目的、大学に入ると良い会社に入るのが目的、それで良い会社に入ると昇格する事が目的になる、一体ゴールはどこなんだらう？何を楽しんでいるのか？今の社会で蔓延している事だから、君らもそうなる事はよくわかる。これは本当に病んでいる社会なんです。地球上で1億2千万人だけが病んでいる事であるかもわからない。そうした時に目的を何におくのかというと、自分だと思ふ。自分に付加価値をつける。

橋本君

いずれの時もそれが楽しんだ。自己実現の要求を充足する事程楽しい事はない、これが目的なんだ。ついでに面接の時にそれが光って見えた時に好感になるということになるわけで、これは理想論かも知れませんが。僕は理想がないとつまらないと思ふだけだな。今先生がおっしゃった、大学に入って卒業するまでに得る付加価値というのは大事だと思うんですけど。情報と経営を融合したみたいな、コンピュータを、経済とか経営の、片一方に偏るのではなくて、もっと大学自体のコンセプトをはっきりしていただければ良いんじゃないかというふうに思います。

平子先生

橋本君からこの大学の付加価値というのをもっと積極的に打ち出すような路線、というのがほしいという話が出ていましたけれど、どういうふうにしたら、皆が持っている大学に望むものが実現されていくのかというあたりの話に移していきたいと思ふ。先程、池田君が話をしていた、情報と経営が分離しているのに失望したという話をしていましたけれど、他の方はどうでしょうか？

池田君

友人に、「大学で何をやっている？」と聞かれるんです。ゼミで経済をやっているの、経済をやっていると聞いても良いんですが、情報大学という名前が付きながら経済をやっているというの、知らない人からすると、変な話に聞こえると思ふんですけど。もう少し、情報大学という名前に相応しいようなカラーを打ち出せるようだったらなと思ふんですけど。

梅津先生

僕は逆なんじゃないかと思ふんです。まず学ぶ現場があって、情報大学という名前は後からついて来るんじゃないかという気がするん

です。情報大学という名前にとられるのではなくて、つくり上げていくという原点に立ち返って考えた方が良いんじゃないかというふうに思います。

池田君

一つ、言い直させてもらいたんですが、情報大学に相応しいカラーではなくて、経営情報学部で相応しいカラーを出してほしいというふうに思います。単学部でありながら、経営情報という名前に相応しい溝溝一つないですよ。

伊藤先生

池田君の言いたいこともすごく良くわかります。自分のアイデンティティが欲しいですね。

米澤君

僕が入学した頃は、まだ大学が新しかったから、情報大学という名前さえも知らない人が多かったから、最近になって名前を知ってくれているだけでも僕は嬉しいです。経営情報学部という以前に、「そこは4年制？短大？」と聞かれると悲しくなったりします。でも新しい大学ですから、それは武器にもなると思ふし、歴史ある大学よりも、武器にしたいと思ふ。

伊藤先生

確かにアイデンティティを欲しいという、そういう欲求を持っていると思うんですけど、本当に重要なのは、自分自身で一体どう変革して行くかというパワーだと思ふ。だから、カラーだとかそういうものも勿論欲しいかもしれないけれど、自分が一体どう変わって行くかという事を大学の中で見つけて行くと、たぶん一番人生楽しくなるんじゃないかと思ふんですけど。

平子先生

学びにきた学生達にとっては、アイデンティティが何なのかというのは大きな問題だと思いますけれど、教える側にいる私達にとってみると、それもさることながら、学生の学ぶ姿勢と言いますか、そのところをもう少しきっちりつくりたい。ただそういうカリキュラムがあれば、そういう人間が生まれるのかというところではなくて、そこでどう主体的に学んでいったかということ初めて結びついて来るわけですから、その辺りは双方の要求があるかと思ふんですね。今日の座談会では随分、学生の生の意見が出て来まして、非常に私達にとっては有意義だったと思ふます。これを踏まえて、これからの情報大学をつくらなければいけないというふうに思います。

それでは、時間もありませんので今日はそろそろ終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか？今日はどうもお忙しいところ有り難うございました。

# ✧ 入試科目の変更について ✧

現行の入試制度を見直し、平成10年度の入試から科目選択を可能とした新しい入試制度に改めることとした。

## 【変更の趣旨】

平成6年度から高等学校の教育課程が改正され、これまでの画一的な教育から多様な教育へと転換が図られている。平成8年度以降この課程で教育を受けた生徒が卒業することに伴い、大学入試もこれらの受験生に対応した入試科目の変更に迫られている。

また、高等学校側からも実業系の学校を含め、大学入試に対する要望が年々強くなってきており、さらに、文部省からも入試科目の設定については、高等学校の実情に配慮するよう指導を受けている。

このような現状を踏まえ、また今後の志願者動向も睨みながら入試委員会で論議を重ね、平成10年度の入試から下表の通り実施することとした。

新入試科目（一期、二期共に各学科の出題科目は共通）

経 営 学 科	情 報 学 科
1. 英語Ⅰ・Ⅱ……………必須  2. 次の科目の中から1科目を選択解答 ◇ 国語Ⅰ・Ⅱ ◇ 政治・経済 ◇ 数学Ⅰ・A ◇ 情報関係基礎 ◇ 簿記・会計	1. 次の科目の中から1科目を選択解答 ◇ 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B ◇ 工業数理 ◇ 情報関係基礎  2. 次の科目の中から1科目を選択解答 ◇ 国語Ⅰ・Ⅱ ◇ 政治・経済 ◇ 英語Ⅰ・Ⅱ
※ 各科目 試験時間60分、100点満点 総合点で合格判定  ※ 出題範囲 ◇ 数学Ⅰ・A 数学Ⅰは順列・組合せ、確率を除く、数学Aは計算とコンピュータを除く、さらに旧教育課程履修者への経過措置として数学Aから平面幾何を除く ◇ 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B 数学Ⅰは順列・組合せ、確率を除く、数学Aは計算とコンピュータを除く、数学Bは確率分布、算法とコンピュータを除く、さらに旧教育課程履修者への経過措置として数学Aから平面幾何を、また数学Bから複素数平面を除く ◇ 情報関係基礎 高等学校の普通科、理数科以外で開設されている情報に関する科目に共通する内容を 出題範囲とする ◇ 簿記・会計 「簿記」と「会計」（「工業簿記」を除く）を出題範囲とする ◇ 国語Ⅰ・Ⅱ 古文、漢文を除く	



## 平成9年度入学式を挙行

4月7日(月)午前10時から、本学体育館において平成9年度の入学式が行われた。

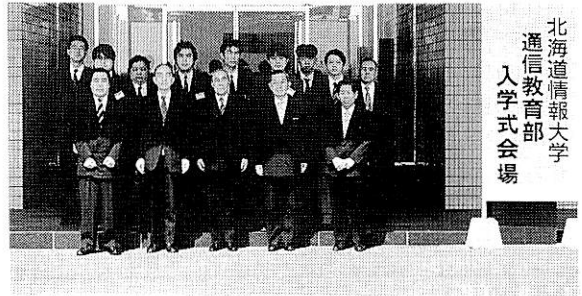
経営学科129名、情報学科128名、計257名の学部学生と、大学院経営情報学研究科(修士課程)学生8名の新入生が多数の父兄が見守る中、緊張した面持ちで入学式に臨んだ式は開式の辞ではじまり、木下学長の告辞、祝辞祝電披露、教員紹介が行われたあとに新入生を代表して情報学科の井上秀明君が大学生活における期待と決意を力強く宣誓した。



## 第4回 通信教育部入学式

平成9年4月11日(金)、第4回通信教育部入学式が北海道情報技術研究所をはじめ、全国18ヵ所で挙行されました。

今年度は経営学科201名、情報学科896名(2年編入6名を含む)、計1,097名が入学しました。午前10時からの入学式、茶話会、オリエンテーションを経て入学式終了となりましたが、終了後に見た学生の顔は、朝の不安そうな顔からヤル気に満ちた顔へと変わっていました。



## 第8回体育祭 行われる

体育祭を終えて

第8回体育祭実行委員長 前田 隆之

今年の体育祭は6月25日、26日の両日において行われました。2日目には小雨が降ったり止んだりと落ち着かない天気となりましたが、実行委員や審判をしてくれた各部の人達、その他にも手伝ってくれた人達のおかげで無事終える事ができました。

今年は準備不足から試合の進行が遅れたり手違いが多く、なにかと反省の多い体育祭となりました。しかし、多くの人に参加してくれて、予想以上に楽しく、盛り上がりを見せました。来年も今年以上の体育祭にしたいと思います。



## 結果報告

◇第8回情報大体育祭結果報告◇

総合優勝 2A

総合2位 1C

総合3位 3D

☆優勝チーム☆

○ソフトボール

優勝 2A

○ドッジボール

優勝 3D

○バレーボール

優勝 1C

○サッカー

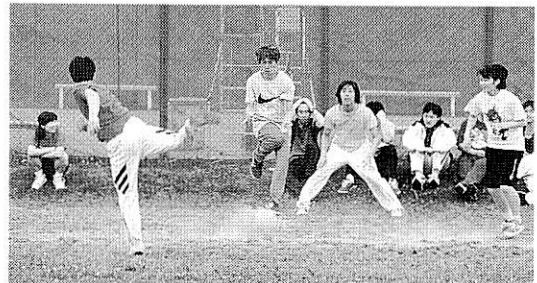
優勝 4J

○バスケットボール

優勝 1D

○障害

優勝 2A



## ◆◇ 4月～6月主要行事 ◆◇

- ☆ 大 学 ☆
- 4月4日(金) 教授会  
7日(月) 入学式  
5月9日(金) 教授会  
6月10日(火) 創立記念日  
13日(金) 教授会  
親交会総会  
6月25日(水)  
～26日(木) 体育祭
- ☆ 通信教育部 ☆
- 4月11日(金) 第4回入学式  
14日(月) 前期放映授業開始  
5月27日(火)  
～29日(木) 地方スクーリング(札幌)  
30日(金)  
～6月1日(日) 地方スクーリング(北九州・福岡)  
6月3日(火)  
～5日(木) 地方スクーリング(大阪)  
6日(金)  
～8日(日) 地方スクーリング(全国)  
13日(金) 地方スクーリング  
～15日(日) (名古屋・北九州・福岡・仙台)  
14日(土)  
～16日(月) 地方スクーリング(札幌)  
17日(火)  
～19日(木) 地方スクーリング(広島)  
20日(金)  
～22日(日) 地方スクーリング(全国)  
24日(火)  
～26日(木) 地方スクーリング(大阪)  
23日(月)  
～30日(月) 前期レポート提出期間

## ◆◇ 広報活動 ◆◇

- 5月 高校訪問(札幌近郊)  
26日(月) 入試結果説明会(新潟)  
27日(火)  
～6月7日(土) 入試結果説明会(道内)  
6月 高校訪問(道内・東北・関東・九州)  
7日(土) 高校教員対象の大学説明会  
(九州電子計算機専門学校小倉校内)  
9日(月)  
～19日(木) 入試結果説明会(東北)  
21日(土) 高校教員対象の大学説明会  
(九州電子計算機専門学校鹿児島校内)  
30日(月) 高校内大学説明会(白樺高校)  
7月 高校訪問(東北)  
4日(金) 高校教員対象の大学説明会  
(中国電子計算機専門学校内)  
5日(土) 高校教員対象の大学説明会  
(大阪電子計算機専門学校内)  
10日(木) 高校内大学説明会(白樺学園)  
30日(水) 入試結果説明会(大宮)

## ◆◇ 主な来校者 ◆◇

- 5月21日(水) 白樺学園高校進路指導部教員(2名)  
6月17日(火) 花巻南高校進路指導部教員(1名)  
20日(金) 日本電子開発(株)岡田社長(他14名)

## お知らせ

「ななかまど」の編集委員長に  
梅津助教授が就任致しました。

## 編集後記

野も山も緑に色づき、カッコーの鳴き声が聞こえる季節になった。先日、芥川賞をもたらった作家が「北海道に来るたびに、こっちの自然には人を養育する力があることを実感する」と語っていたが、特に今頃の季節はそうであろう。研究室から見える原生林の若葉は目にしみるほどで、ヒバリたちのせわしないさえずりにはつい笑いを誘われてしまう。生きとし生けるものとの共生感覚を実感できるといふ意味で、我が情報大学の教育・研究環境は素晴らしい一言に尽きる。

そして最近の嬉しいニュースは何と言っても新校舎建設の話。既に図面もできあがり、今秋から図書館、階段教室などの工事が始まるとのこと。手狭な図書室はそろそろ限界だっただけに、ホッとしているのは図書室の人たちだけではないだろう。新校舎が完成した暁にはその写真が「ななかまど」の表紙を飾ることになる筈。編集委員(梅津・図書室の3名)も今から楽しみにしています。(U)

## 北海道情報大学学内報

## 「ななかまど」第5号

発行日 平成9年7月1日  
発行 北海道情報大学  
編集 学内報編集委員会